

1894年刊『日韓會話』の韓国語について

陳南澤*

Characteristics of Korean in "Nikkan Kaiwa" published in 1894

JIN Namtaek

要旨

本稿では開化期の韓国語学習書である『日韓會話』(1894)におけるハングルと仮名表記から、当時の韓国語の音声・音韻論的特徴や終結語尾などを概観する。『日韓會話』には、韓国の開化期の教科書や新聞などの文語中心の文献よりも現代韓国語の特徴が多くみられる。本稿では、本書と『朝鮮語学独案内』や『旅行必用日韓清對話自在』との関連性を指摘し、当時の韓国語の音声的な特徴と助詞や終結語尾の使用実体を主に概観する。本書は語彙の面においても現代韓国語の形成過程を明らかにするのに役立つと考えられる。今後、明治期の他の韓国語学習書を総合的に考察することで現代韓国語の形成過程をより明らかにできると期待される。

キーワード：韓国語、韓国語学習書、仮名音注、開化期、日韓會話、

1. はじめに

本稿では1894年に東京で刊行された『日韓會話』(明治27年、参謀本部刊行)¹⁾に現れる韓国語の本文とその仮名音注を分析し、本書に現れる19世紀末の開化期の韓国語の特徴を概観する。明治期の1890年代には、日本人のための韓国語学習書が多く刊行されており、これらの文献には開化期の韓国語の口語的な特徴を表すものが多い。本書に反映されている韓国語の性格について本書での説明はないが、全体的に当時の他の文献に比べて現代韓国語の特徴が多く見られる。

同じ年に刊行された『朝鮮語学独案内』(明治27年12月刊行、松岡馨著)と本書(明治27年8月刊行)は共通する文が多くみられ、また『旅行必用日韓清對話自在』(明治27年7月刊行、太刀川吉次郎編輯)の本文の大部分は本書と同じである。このことは、これらの文献の関連性を示している。

先行研究として朴基永(2005)と李康民(2006)がある。朴基永(2005)では、本書に関する簡単な書誌的紹介と、開化期における韓国語の音韻的な特徴を他の韓国語学習書と合わせて分析している。また李康民(2006)では、本書に関する紹介と『交隣須知』をはじめとする他の朝鮮語学習書の構成との比較、および幾つかの日本語の特徴を示しており、韓国語に関しては現代語と異なる幾つかの語彙を紹介している。

* 岡山大学 言語教育センター

1) 本稿では日本国立国会図書館の所蔵本を分析対象にした。以下「本書」とする。

2. 『日韓會話』 について

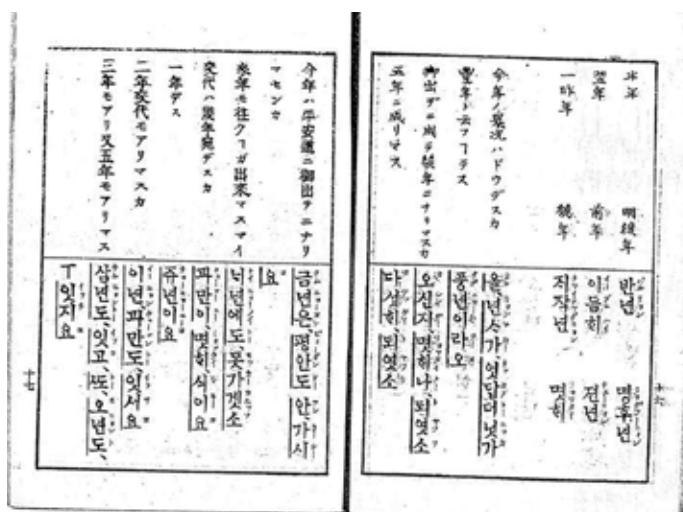
本書は1894年(明治27年)8月に参謀本部により東京神田の「八尾活版所」で刊行された韓国語学習書で、小さいサイズ(横8.2cm、縦12.9cm)の会話集である。本書の本文は7編で構成されており、巻末に付録として「日清韓重要地名」と「諺文ノ成立」が付いている。

本書の構成は次の表1の通りであるが、李康民(2006:220-224)は、他の韓国語学習書の構成との比較から、本書は意味分類による構成という点では『交隣須知』(1881)の影響を受けているが、内容においては異なることを指摘している。

〈表1-『日韓會話』の構成〉

第一編	第一 基数 第六 通貨ノ算数	第二 月称 第七 升量、尺度、重量及单独称量	第三 日称	第四 年称	第五 時称
第二編	第八 天文 第十三 金宝	第九 方位	第十 地理	第十一 建設物	第十二 国土
第三編	第十四 人族	第十五 官位	第十六 親族	第十七 身体	第十八 疾病
第四編	第十九 家宅 第廿四 織物	第二十 家具	第廿一 飲食物	第廿二 食器	第廿三 衣冠
第五編	第廿五 武器 第三十 舟車及輜輿	第廿六 馬具	第廿七 鉄器	第廿八 文房具	第廿九 雜器
第六編	第三十一 穀物 第三十六 水族	第三十二 蔬菜 第三十七 鳥類	第三十三 草木 第三十八 獸畜	第三十四 花卉	第三十五 菓実
第七編	第一章 始メテ逢ヒシ人トノ談話 第三章 来客ニ対スル談話 第五章 旅行ニ関スル談話 第七章 途上ニテ起ルヘキ談話 第九章 商店ニテ起ルヘキ談話	第二章 久々ニテ逢フタル人トノ談話 第四章 食事ニ関スル談話 第六章 同上馬夫トノ談話 第八章 旅宿ニテ起ルヘキ談話 第十章 食料品売買ノ談話			
附録	日清韓重要地名		諺文ノ成立		

本文は〈図-1〉のように二段で構成され、上段には日本語の単語や文があり、下段にはそれに対応する韓国語の単語や文をハングルで書いて、その発音をハングルの右に片仮名で併記している。また、「第一編」から「第六編」までは、まず単語を示して、続けて単語を用いた文を示しており、「第七編」では特定の状況における対話文で構成されている。



〈図-1〉

本書には跋文はなく、巻頭に「緒言」がある。李康民(2006:218)の指摘のように、緒言には韓国語の発音法と仮名音注に関する簡単な説明はあるが、本書の著者や作成過程²⁾に関する説明は現れない。「緒言」は次の通りである。

緒言

- 一、本書纂述ノ目的ハ朝鮮語未知ノ軍人ヲ利スルニ在リ。故ニ用語ハ務メテ平易簡略ヲ主トシ成ルベク軍隊必要ノ語言ヲ撰録セリ。
- 一、諺字ハ箕上下ノ影響乃口調ノ抑揚ニ依リ本音ヲ失ヒ乃ハ長短緩急ノ差ヲス。故ニ傍訓ハ以テ直チニ其本音ト認ムカラス。
- 一、傍訓ニ「ガ ギ グ ゲ ゴ」アルハ、「カキクケコ」ト「ガギグゲゴ」トノ間音。「ツ」ハ羅馬字ニテTU或ハDUト同一ノ發音ナリ。元來本邦ノ假名ハ以テ悉ク彼國ノ音ヲ現ハス能ハヌ故ニ今之ヲ假造シ以テ發音ノ便ニ供ス。
- 一、右傍ノ句點ハ言語ノ換節ヲ表スルモノナレトモ對談ニ際シテハ可成左傍ノ線ニ依テ句切スヘシ。

1894年前後には10種以上の韓国語学習書³⁾が刊行されているが、『朝鮮語学独案内』(明治27年12月東京築地活版製作所刊行、松岡馨著)と本書(明治27年8月刊行)とは共通する文が多くみられ、また『旅行必用日韓清對話自在』(明治27年7月刊行、太刀川吉次郎編輯)の文の大部分は本書の本文と同じものである。

本書と『朝鮮語学独案内』の本文には同一のものと、共通の内容を一方で修正したと思われる項目が散見される。以下、『朝鮮語学独案内』の文は「朝独」と表示する。

<同一の文>

- (16)(朝独-125) 울년스가 잇답더닛가?
풍년이라고
- (40)(朝独-138) 함경도는 벌서 눈이 왔다오
- (62)(朝独-148) 초토스가 팔빅명을 거느려 갔소
- (223)(朝独-145) 이 길이 어드러 가는 길이요?
아무데로 가는 길이요
- (223)(朝独-145) 저 길하고 이 길은 어네거시 잣갑소?
- (224)(朝独-145) 저 길이 잣가오나 밍오 험하고
- (216)(朝独-181) 그 강에 다리 안 노왓소?
다리 업소
- (216)(朝独-181) 빅 드러오는 큰 강이니 빅 트고 건너가지요
- (142)(朝独-165) 이 동네테 훙이 얼마 잇소?

2) 李康民(2006:218-220)は、本書に現れる次のような本文の内容をもとに、本書の原稿は1894年の前半期に釜山で日本人と韓国人が本文を作成し、参謀本部により東京で刊行されたと推定している。以下、()内の数字は本書における頁数を示し、文末の「?」は、本文にはないが、理解のために筆者が入れたものである。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| (80) 지방 녁의정이 누구요? | (80) 심순탁이요 |
| (82) 병당이 전라도 갔소? | (82) 초토스가 팔빅명을 거느려 갔소 |
| (143) 여긔 화약 문드는 데가 잇소? | (143) 업소 |
| (143) 어데서 문드오? | (144) 서울하고 가평에서 문드지요 |

参考までに、次の文は日本人と韓国人の間の会話文である。

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| (192) 양이 업소? | (192) 양은 아국에 도모지 업소 |
| (242) 간장 팔데 업소? | (242) 아국서는 집마다 민드니 팔데가 별노 업소 |
| (196) 귀국은 춤 그런 집이 만겿소 | (196) 동경에는 만치요 |

3) 『日韓英三國對話』(1892年刊) 『日韓通話』(1893年刊) 『日韓會話』(1894年刊)
 『實用朝鮮語正編』(1894年刊) 『新撰朝鮮會話』(1894年刊) 『速成獨學朝鮮日本會話篇』(1894年刊)
 『朝鮮語學獨案内』(1894年刊) 『朝鮮俗語早學』(1894年刊) 『旅行必用日韓清對話自在』(1894年刊)
 『日韓清會話』(1894年刊) 『日清韓往復文』(1894年刊) 『日清韓三國對照會話篇』(1894年刊)
 『兵要朝鮮語』(1894年刊) 『朝鮮通語獨案内』(1894年刊) 『日本語獨案内』(1895年刊)

<内容の修正がみられる文>

세여 보니 두돈 모자라요 (27)	세여 보니 혼냥 닷돈 모자라오 (朝独-201)
오늘 저녁에 비가 썬나오? (21)	오늘밤 술딩에 비가 썬나오?
나일 오딩에 썬난다오 (21)	나일 오딩에 썬난다오
오늘밤부터 트야 흥겐소 (21)	오늘밤부터 트야 흥겐소?
나일 앓참이나 먹고 천천히 트시오 (22)	나일 앓참 트시오 (朝独-130)
전보 낫코 오느라 (55)	싸움 쓰는 전보 낫고 오느라 (朝独-168)
전보줄이 쓴어젓답테다 (55)	싸움쓰는 전보줄이 쓴어젓답테다 (朝独-168)
세계 만국중에 어는 나라히 데일 강호오? (58)	어는 나라가 강호오? (朝独-167)
일본이 데일이지오 (58)	대일본테국가 제일이오 (朝独-167)
군법은 어데 군법이 나아오? (59)	군법은 어데 군법이 나아오? (朝独-168)
아마 일본인가 보오 (60)	일본인가 보오 (朝独-168)
이 활이 몇보나 가오? (141)	이 살이 몇보나 가오? (朝独-162)
이빱 오십보 가오 (141)	삼빱 오십보 가오 (朝独-162)
이빱 오십보 가서 사름 죽이겐소? (141)	그러면 사름이 죽이겐소? (朝独-162)
마즈면 죽지요 (142)	마즈면 죽지요 (朝独-162)
나무가 글그니 독기로 썬려라 (151)	그 가지가 클그니 툄오로 썬려라 (朝独-125)
인천서 서울 가는 길은 흥나 썬이오? (214)	인천서 서울 가는 길은 흥나 썬이오? (朝独-174)
둘 잇소 (214)	둘 잇소 (朝独-174)
흥나는 별이게를 넘어 삼게로 가고 (214)	흥나는 별이게를 넘어 삼게로 가는 길이오 (朝独-175)
흥나는 석바외서 왼편으로 가 양화도를 건너 갑네다 (214)	또 흥나는 석바외서 왼편으로 가 양화도를 건너 가지요 (朝独-174)
무슨 일노 그리 급히 갓소 (81)	무슨 일로 그리 급히 오섯소? (朝独-122)
이번 소문을 듯고 급히 갓소 (81)	이번 소문을 듯고 급히 왔소 (朝独-122)
자실 거시 업서서 썬인된 므음에 므오 미안호오 (120)	자실거시 업서서 므우 미안호오 (朝独-192)
대단히 페를 시겐소 (120)	대단히 페를 시겐소 (朝独-193)

これらの例文は、兩文献が共通の資料を参考にしたか、あるいは一方が他方を参考にしたことを示す。特に「나일」「삼게」⁴⁾のように間違っている表記も共通している点が目立つ。

また、『旅行必用日韓清對話自在』(1894年9月刊行)にはハングル表記は現れず、片仮名で韓国語が表記されているが、大部分の本文は『日韓會話』と同じであり、一部は『朝鮮語学独案内』の本文と一致する。ただし、片仮名表記は文献によって異なる部分もみられる。以下、『旅行必用日韓清對話自在』は「旅必」で示し、便宜上、『日韓會話』などのハングル表記で表わす。

- | | |
|--------------|------------------------------|
| (旅必-23)(61) | 서울 흥고 촌은 풍속이 다르오? |
| (旅必-24)(61) | 각 도가 다 달나요 |
| (旅必-28)(111) | 현판 글시가 뉘 글시요? |
| (旅必-28)(111) | 대원군의 글시요 |
| (旅必-29)(40) | 함경도는 벌셔 눈이 왓다오 |
| (旅必-29)(214) | 인천서 서울 가는 길은 흥나 썬이오? |
| (旅必-34)(221) | 우리는 므양 이 길 갑네다 ⁵⁾ |
| (旅必-46)(197) | 창 다더라 뵤름이 든다 ⁶⁾ |

4) 「넬일」「삼게」が正しい表記である。以下のような表記もみられる。

- 넬일은 어데 가시려오? (173) (朝独-165)
삼게에 열척이나 잇고 양화도에 오륙척이나 잇소 (216)
삼게에 가는 길이오 (朝独-180)

5) (朝独-178) 우리는 므양 이 길 가겐소

3. 「日韓會話」の韓国語について

3.1. 音注について

本書のハングルには片仮名で音注が施されているが、その特徴をみることにする。「付録」の「諺文ノ成立」には次のように「諺文圖」が載っている。

<諺文圖>7)

		平音										激音				
		牙		舌			脣		齒		喉		牙	舌	脣	齒
		ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	ㅈ	ㅇ	ㅋ	ㆁ	ㆁ	ㄷ	ㅈ	ㅊ
開口 長調	ト	가 카-	나 나-	다 タ-	라 ラ-	마 マ-	바 バ-	사 サ-	자 ツア-	아 ア-	하 ハ-	카 カ-	타 タ-	차 ツア-	파 パ-	
	ト	가 キヤ-	나 ニヤ-	다 チャ-	라 リヤ-	마 ミヤ-	바 ビヤ-	사 シヤ-	자 チャ-	야 ヤ-	하 ヒヤ-	카 キヤ-	타 チャ-	차 チャ-	파 ピヤ-	
咽喉 長調	ト	거 コ-	너 ノ-	더 ト-	러 ロ-	머 モ-	버 ボ-	서 ソ-	저 ツォ-	어 オ-	히 ホ-	커 コ-	터 ト-	치 ツォ-	피 ポ-	
	ト	거 キョ-	너 ニョ-	더 チョ-	러 リョ-	머 ミョ-	버 ビョ-	서 ショ-	저 チョ-	여 イョ-	히 ヒョ-	커 キョ-	터 チョ-	치 チョ-	피 ピョ-	
窄口 短調	ト	고 コ	노 ノ	도 ト	로 ロ	모 モ	보 ボ	소 ソ	조 ツオ	오 オ	호 ホ	코 コ	토 ト	초 ツオ	포 ポ	
	ト	고 キョ	노 ニョ	도 チョ	로 リョ	모 ミョ	보 ビョ	소 ショ	조 チョ	요 ヨ	호 ヒョ	코 キョ	토 チョ	초 チョ	포 ピョ	
窄口 長調	ト	구 ク-	누 ヌ-	두 ツ -	루 ル-	무 ム-	부 ブ-	수 ス-	주 ツ-	우 ウ-	후 フ-	쿠 ク-	투 ツ -	추 ツ-	푸 プ-	
	ト	구 キユ-	누 ニユ-	두 チウ-	루 リュ-	무 ミュ-	부 ビユ-	수 シユ-	주 チュ-	유 ユ-	후 ヒユ-	쿠 キユ-	투 チウ-	추 チュ-	푸 ピユ-	
半開 口短調	一	ㄱ ㄱ	ㄴ ㄴ	ㄷ ㄷ	ㄹ ㄹ	ㅁ ㅁ	ㅂ ㅂ	ㅅ ㅅ	ㅈ ㅈ	ㅇ ㅇ	ㅋ ㅋ	ㆁ ㆁ	ㆁ ㆁ	ㄷ ㄷ	ㅈ ㅈ	
	ト	기 키	니 ニ	디 チ	리 リ	미 ミ	비 ビ	시 シ	지 チ	이 イ	히 ヒ	키 キ	티 チ	치 チ	피 ビ	
	・	마 カ	나 ナ	타 タ	라 ラ	마 マ	바 バ	사 サ	자 ツア	아 ア	하 ハ	카 カ	타 タ	차 ツア	파 パ	

全般的に本書の仮名音注は文字転写ではなく、音声転写に近いといえる。例えば、次の例は本書の仮名音注がハングル表記を対応する仮名にそのまま写したのではなく、実際の発音を反映しようとしたものであることを示している。

- ◎ 連音化
(28) 사름이 サーラミー (60) 군범이 クンボービー
- ◎ ㅇの脱落
(21) 가만히 カーマーニー (65) 흔히 フニー
(27) 못호오 モッタオ
- ◎ 二重母音の発音
(35) 세근 セークン (37) 다른데 タールンデー
(47) 둥넌 トグネー (42) 읍넌 ウブネーカ
- ◎ 激音の発音
(23) 혼돈오편 ハンドンオツブン (87) 녀편넌 イヨツピヨンネーヌン

6) (朝独-129) 미다지 다더라 너무 뵈름이 든다

7) 本書の「緒言」では次のように記述されている。

一、傍訓ニ「ガキグケゴ」アルハ、「カキクケコ」ト「ガキグケゴ」トノ間音。「ツ」ハ羅馬字ニテTU或ハDUト同一ノ發音ナリ。

◎ 語尾の発音⁸⁾

(95) 엇덜소	オツタツソ	(37) 흐려서	フリヨーサー
(43) 좁어요	チヨバーヨ	(58) 좁어도	チヨ-バート
(52) 엽서요	オブサーヨ	(13) 잇서요	イツサヨ

◎ 鼻音化

(42) 잇는	インヌン	(52) 닷는	タンヌン
---------	------	---------	------

3.1.1. 「・」の表記

本書において「・」と表記されているハングルに対応する仮名音注は、1) 自立語⁹⁾は「ア段」、2) 語尾と助詞の「ㄴ/는、습/습」は「ヌ/ヌン、スム」で音注されている。次の例は、本書に現われる母音「・」と関わる自立語の一部であるが、これらの語彙の「・」はいずれもア段で音注されているため、仮名音注は省略する。

(72) 마룻쳐요?	(34) 누소	(239) 누치요	(169) 누물(최소)	
(80) 누려간답네다	(88) 누	(34) 누는	(146) 누래	(186) 누
(35) 들	(243) 들결	(204) 솜	(151) 쓱려라	(84) 솜죽
(120) 믿음	(143) 믿는	(36) 브름	(101) 사름	(179) 슬구
(168) 슬마다요	(40) 씌인다요	(27) 쓸	(67) 으희	(52) 즈세이
(149) 즐너라	(94) 즐치기	(118) 츠렛느냐?	(28) 츠자 왔다?	(95) 츠말
(166) 줍쓸	(22) 투야	(168) 풋밥	(9) 히로	(31) 훈쌈
(13) 공스	(170) 고스리	(216) 장스빅	(52) 군스	(100) 요스이
(82) 거누려	(197) 거누리시요?	(133) 매들은	(145) 칼늘	

語尾や助詞の「ㄴ/는、습/습」は各々「ヌ、ス」で音注されているが、語尾や助詞の「는」は一部であり、主に「는」が使われている。また「습/습」の場合は「습」も一部使われている。

(37) 없는/(238) 업는	(53) 가는/(214) 가는
(53) 기천에는/(114) 귀국에는	(52) 다드느냐?/(118) 츠렛느냐?
(73) 왓습네다 ¹⁰⁾	(75) 가겟습네다
	/(118) 먹엇습네다 (173) 먹습네다

また、中期韓国語で「・」を持っていた語彙の場合もハングル表記自体が他の母音に変わっている例もみられる。参考までに、「히다」を「허다」と表記した例は見当たらない。

(85) 아들	(9) 오늘	(131) 벼슬	(35) 하늘	(36) 구름
(85) 며느리	(145) 여름	(6) 녀름	(66) 그릇	

以上をまとめると、本書では自立語の場合は「ア段」で音注されており、「・」と「ㅏ」は区別されていない。また、非語頭の自立語の「・」のうち現代語で「一」に対応する語彙はハングル表記自体が「一」に変わっている。助詞と語尾の一部に「・」が使われているが、この場合も「一」を持つ語形もみられる。

8) 語尾の「-셔/서」は概ね「サ」と、副詞(例: (37) 벌셔, (118) 어셔)の「-셔」は「ソ」と音注されている。

9) 本書では「(200) 말습」は一例だけであり、「マルスム」と表記されているが、他のハングル表記では「말습」である。また「오나라」は「オナラ」と音注されている。

10) 一例だけ「ソ」で表記去れている。

(28) 왓습네다 ワツソムノイダ

3.1.2. 二重母音の表記

二重母音のうち、「ㅞ/ㅟ/ㅠ」を含む一部の単語の仮名音注は単母音化を表している例がみられるが、他の二重母音の音注には単母音化を表す例は現れない。

◎ 「ㅞ/ㅟ/ㅠ」を単母音と音注表記された例

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------------------|
| (1) 셋 세ツ | (35) 세근 세クン | (1) 넷 தேツ |
| (9) 아흐레 아フレー | (9) 일헤 イーレー | (9) 여드레 イョー ^ツ レー |
| (97) 계가 ケーカー | (42) 읍늑 우プネーカ | (47) 동늑 トグネー |
| (13) 다키로 ナイケーロ | (10) 어테 オーテー | (3) 쓸데 スルテー |
| (37) 다른데 タールンデー | (41) 가운데 카온デー | (28) 가네 カーネー |
| (3) 가겟소 カーカエツソ | | |

◎ 「ㅞ/ㅟ/ㅠ」を二重母音と音注表記された例

- | | | |
|-----------------|----------------|------------------|
| (179) 대추 타이チュー | (19) 새벽 사이비옥 | (29) 흥개 한가이 |
| (219) 어네째 오노イタイ | (10) 어네날 오노イナル | (50) 어네거시 오노イコーシ |
| (9) 닷세 タツソイ | (9) 옛세 イヨツソイ | (9) 그적계 クヂヨッコイ |
| (9) 모레 モーロイ | (9) 어제 オーヂヨイ | (21) 옛뎃계 옫타ツ카이 |
| (15) 락년 마이ニヨン | (21) 빙가 바이カー | (2) 빙 바이ク |

◎ その他の二重母音の例

- | | | |
|----------------|--------------|----------------------------|
| (135) 가마귀 카マクイ | (45) 바위 パーウイ | (2) 윈 스イン |
| (9) 글피 쿨파이 | (67) 오희 아파이 | (66) 사나희 사나ウイ |
| (29) 녀되 노트イ | (37) 뵈오 보이오 | (63) 시우쇠 시우 ^ツ 이 |

3.1.3. ㅅ+j系二重母音

「ㅅ+j系二重母音」をもつ単語の仮名音注をみると、次の例のように多くが単母音を表す仮名音注になっている。ただし、「水 슈」を含む単語や「未来連体形+슈」のように二通りの仮名音注がみられる例もある。

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------------------|
| (9) 서울 ソーウル | (128) 집석이 チブソーキー | (67) 빙성 박스그 [°] |
| (100) 승양 スグ サグ | (67) 석슈 소クスー | (88) 슈염 스ーイヨム |
| (36) 서풍 ソーツプグ | (37) 벌셔 볼ソー | (118) 여셔 オーソー |
| (45) 호슈(湖水) 호ーシュー | (61) 호슈(戸數) 호ースー | |
| (64) 슈은 スーウン | (58) 슈군은 スークーヌン | |
| (170) 슈박 シューバク | (56) 슈로슈어ロー | (78) 슈스 シューサ |
| (19) 예셔 エーサー | (37) 흐려셔 フリョーサー | (39) 와서 ワーサ |
| (36) 알 슈 アルスー | (53) 노홀 슈 ノフルシュー | |

3.1.4. 頭音法則

本書に現われる語頭の「ㄷ」と前舌高母音の前の「ㄹ」を持っていた韓国語単語のハングル表記と仮名音注をみると、語頭の漢字語における「ㄷ」はほとんど現れず、「ㄹ」になっている例が多く、前舌高母音の前のハングル表記における「ㄹ > ㅇ」の変化は少ない。しかし、前舌高母音の前の「ㄷ/ㄹ」を持っていた漢字語と固有語の仮名音注には、「ㄹ」の発音がなくなっている。

- | | |
|---------------------|------------------|
| (6) 녀름 イョールム | (60) 뱃적에 エツチョーコイ |
| (88) 니(齒) イ | (127) 니불 イーブル |
| (67) 니장이 イーヂャーギ | (88) 니마 イマー |
| (120) 녀어 イーゴ | (147) 녀여라 イーョーラ |
| (132) 녀러나셔 イーローナーソー | |

- | | |
|-----------------|------------------|
| (67) 양반 ヤグバン | (83) 양친 ヤグ친 |
| (66) 녀인 イヨーイン | (177) 년화 イヨンフアー |
| (219) 녀녀 イ요ムニョ어 | (7) 뉴헝섯소? यूハソツツ |
| (1) 룩 यू크 | (2) 녹십 ユクシプ |
| (56) 녹노가 ユグノーカ | (176) 니화 이ーフ어 |

3.2 助詞

本書では主題格助詞「은/은/은/는/는」、主格助詞「이/시/치/가」、目的格助詞「을/을/를」が使われている¹¹⁾。主題格助詞「는/는」においては、基本的に「는」が使われているが、一部に「는」がみられる。参考までに連帯形語尾「는/는」¹²⁾も同様である。

- ◎ 主題格助詞

(19) 서울은	(124) 그릇은	(213) 밥값은	(230) 이거은	(135) 빗은
(53) 거게는	(87) 내 아우는	(131) 그는	(187) 나는	
(40) 함경도는 / (174) 함경도는	(48) 밧갈기는 / (91) 피나기는			
(66) 우리는 / (168) 우리는				
- ◎ 主格助詞¹³⁾

(6) 오일이	(40) 옷시	(66) 그릇시	(26) 감시	(218) 삭시
(54) 물마시	(205) 이거시	(135) 빗치	(21) 빙가	(32) 길기가
- ◎ 目的格助詞

(3) 들을	(2) 그거을	(3) 네을	(3) 다섯을	(72) 마부를
--------	---------	--------	---------	----------

3.3. 終結語尾

3.3.1. 平叙形語尾

本書では平叙形語尾¹⁴⁾として「ㄷ네다/ㄹ네다/습네다/습네다¹⁵⁾、소、오/요、올시다、리다、다」が使われ、「습나이다、사외다」などは現れない。次は平叙形語尾の例である。

11) 『日韓英三国対話』(1892)では主題格助詞「은/는」と目的格助詞「을/를」が使われ、『朝鮮語学独案内』(1894)では主題格助詞「은/은/은/는」と目的格助詞「을/을/을/를」が使われている。鄭吉男(1999:131)によれば、開化期の一部の韓国語聖書に「는」が少し現れ、当時の韓国の教科書や天主教関連文献では「는」が一般的に使われた。

12) 次の例は連帯形語尾「는/는」の両方が現れる語彙である。

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| (32) 되는 / (219) 데일되는 | (28) 가는 / (214) 가는 |
| (53) 기천에는 / (114) 귀국에는 | (132) 압꾸지마는 / (100) 업지마는 |
| (68) 못하는 / (131) 벼슬하는 | (37) 업는 / (238) 업는 |

13) 本書で「나라」の場合、古い語形である「나라히」が使われている。参考までに『朝鮮語学独案内』(1894)では「나라가」が使われている。

- (59) 녹군은 어네 나라히 만소?
 (58) 세계 만국 중에 어는 나라히 데일 강호요?
 (朝独-167) 어는 나라가 강호요?

14) 韓国の開化期教科書には平叙形語尾が次のように多用に現れる。(鄭吉男 1999:85-94).

- 1) 最丁寧 : ㄴ이다, ㄴ이다, 노이다, 리이다, 니이다, 더이다, 소이다, 올시다
- 2) 丁寧 : 오이다, 오소, 요.
- 3) 普通 : 다. 라. 지라. 니라. 리라. 더라. 노라. ㄴ니. 지라. 으니. 치

『日韓英三国対話』(1892)では平叙形語尾を3段階で設定し、次のような例をあげている。

	現在	未來	過去	命令
上品語	허오 합니다 又 험니다	헝시다 허깃소 허깃소이다	힛소 힛습니다	허시오 허오
賤語	헌다	허깃소	힛다	히라

15) 参考までに明治16年本『交隣須知』には「네다」、『日韓通話』(1893)には「너다」、『朝鮮語学独案内』(1894)では「니다」、『新訂尋常小學』(1896)と『校訂交隣須知』(1904)には「너다」で現れる。

- ◎ 올시다
 - (218) 열닷냥이올시다
 - (221) 네, 오류쫘이올시다
- ◎ ㄴ네다/ㄹ네다/습네다/슴네다
 - (173) 두어시나 먹습네다
 - (46) 씨서 왔습네다
 - (73) 불너 왔습네다
 - (75) 밤이라도 가겠습네다
 - (243) 잇다가 가져 오겠습네다
- ◎ 리다
 - (11) 초흐른날노 작덩히리다
 - (83) 오늘 쇼운흐고 의논흐여 보리다
 - (99) 그러면 알는 사릅을 데리고 오리다
 - (145) 돛거든 내게 잇는 걸 흐나 드리리다
 - (231) 그리 흐오리라
 - (233) 그리 흐리다
- ◎ 오, 요
 - (37) 날이 흐려서 별이 안 보오
 - (38) 브름도 대단흐오
 - (50) 김판셔 퍽이요
 - (43) 좁어요
 - (44) 최진스가 사오
- ◎ 소
 - (36) 하느님 아니면 알 슈 업소
 - (37) 희가 벌셔 놓합소
 - (38) 거문 구름이 만히 낫소
 - (37) 다른데 언약이 잇스니 가겠소
- ◎ 다
 - (37) 텃디 기벽 이후로 업는 일이다
 - (147) 안장을 그룬데다 두면 상흐겠다
 - (149) 밀치가 업스니 안장이 아푸로 나간다

3.3.2. 疑問形語尾

本書では次のような多様な疑問形語尾¹⁶⁾が使われている。また、疑問形語尾「-가:-고」の対立は見られず、「-가」だけが現れる。

- ◎ 닛가, 릿가
 - (203) 공스 잇습더닛가?
 - (230) 밥 몇상 츠림느닛가?
 - (218) 교군은 쓸데 업습느닛가?
 - (210) 더 드리릿가?
 - (121) 쯤 흐그릇 가져 오릿가?
- ◎ 오, 요, 려오, 료
 - (10) 너일은 어데 가시려오?
 - (12) 오늘부터 몇출만이요?
 - (43) 압집이 크오?
 - (58) 세계 만국중에 어는 나라히 데일 강흐오?
 - (12) 극그적게 오섯다지요? (118) 점심 자섯나요?

16) 韓国の開化期教科書には疑問形語尾が次のようである。(鄭吉男 1999:95-99).

1) 最丁寧 : 니잇고, ㄴ잇가, 리잇가, 니잇가
 2) 丁寧 : 리오, 리잇가
 3) 普通 : 냐, 뇨, ㄴ뇨, ㄴ고

- ◎ 소
(32) 길기가 얼마나 잇소?
- ◎ 나, 나
(46) 그 녀 꼭딕이에 집이 잇나?
(48) 이 논답은 쓸이 얼마나 되나?
(50) 그 큰 집이 뉘 집이냐?
- ◎ その他
(53) 그 지천에는 잇겠지?
(160) 그물 가져가 물고기 잡아 옷가?¹⁷⁾

3.3.3. 命令形語尾

本書では極尊稱の「-쇼셔」は現れず、「-시오、-오、-라」が使われている。

- (38) 주무시오
- (2) 그거슬 ㅎ나 쥬시오
- (92) 손 대지 마오
- (92) 세를 내여 보오
- (228) 밥은 다른데서 지여라
- (162) 술에에 실어 가거라
- (233) 세슈물 썬 오느라
- (228) 방이 너무 더우니 온돌 썬지 마라
- (221) 밥 먹고 곧 썬날 거시니 말게도 급히 먹여라

3.3.4 勸誘形語尾

本書では勸誘形語尾として「읍시다/읍시다/ㅁ시다 자」が現れている。

- (227) 그리 ㅎ읍시다
- (200) 일본 말노 말슴 ㅎ읍시다
- (43) 저리 갑시다
- (208) 잇다가 먹자

4. 終わりに

本稿では開化期の韓国語学習書である『日韓會話』(1894)におけるハングルと仮名表記から、当時の韓国語の音声・音韻論的特徴や終結語尾などを概観した。『日韓會話』には、韓国の開化期の教科書や新聞などの文語中心の文献よりも現代韓国語の特徴が多くみられる。本稿では、本書と『朝鮮語学独案内』や『旅行必用日韓清對話自在』との関連性を指摘し、当時の韓国語の音声的な特徴と助詞や終結語尾の使用実体を主に概観した。本書は語彙の面においても現代韓国語の形成過程を明らかにするのに役立つと考えられる。今後、明治期の他の韓国語学習書を総合的に考察することで現代韓国語の形成過程をより明らかにできると期待される。

17) 参考までに『朝鮮語学独案内』(1894)では次の文が現れる。
(朝独-119) 딕 내일 물고기 잡아 옷가?

<參考文獻>

- 김완진(1978), 「母音体系와 母音調和에 대한 反省」, 『語学研究』 14-2, 서울대학교 어학연구소 (『音韻과 文字』(1996)에 재수록)
- 김형철(1997), 『개화기 국어연구』, 경남대학교 출판부
- 朴基永(2005), 『開化期 韓國語의 音韻 研究 : 日本에서 刊行된 韓國語 學習書를 中心으로』, ソウル大学校博士学位論文
- 박영섭(1994), 『개화기 국어 어휘 자료집』 1卷~5卷, 서광학술자료사
- 申昌淳(2003), 『國語近代表記法の 展開』, 太學社
- 유필재(2001), 『서울지역어의 음운론적 연구』, ソウル大学校博士学位論文
- 李康民(2006), 「메이지(明治)期 參謀本部의 韓國語 學習書-1894年刊『日韓會話』와 관련하여」, 『日本語文學』 第31輯 pp.211-232, 韓國日本語文學會
- 鄭吉男(1992), 『19세기 성서의 우리말 연구』, 서광학술자료사
- 鄭吉男(1999), 『개화기 교과서의 우리말 연구』, 박이정
- 陳南澤(2010), 「『日韓英三國對話』におけるハングル表記と仮名音註について」 『大学教育研究紀要』 第6号
- (2012), 「『日韓通話捷徑』における仮名音註について」 『大学教育研究紀要』 第8号
- (2013), 「『朝鮮語学独案内』における仮名音註について」 『大学教育研究紀要』 第9号
- 桜井義之(1974), 「日本人の朝鮮語学研究」 『韓』 Vol.3 No.7
- 山田寛人(1998), 「朝鮮語學習書·辞書から見た日本人と朝鮮語 -1880年~1945年-」 『朝鮮學報』 第169輯
- 小倉進平(1940), 『増訂朝鮮語学史』 刀江書院

<分析資料>

參謀本部(1984), 『日韓會話』, 国立国会図書館所蔵 (日本)

<參考資料>

- 松岡馨(1984), 『朝鮮語学独案内』, 国立国会図書館所蔵 (日本)
- 太刀川吉次郎編輯(1984), 『旅行必用日韓清對話自在』, 国立国会図書館所蔵 (日本)
- 赤峯瀬一郎(1984), 『日韓英三國對話』 国立国会図書館所蔵 (日本)

